

### 私たちに励まし支えてくれる 讃美歌 たち

折にふれ思い出し、口ずさお讃美歌。その時々、の気持ち、歌声になります。時に慰められ、励まされます。すっかり忘れていた神様の大きな愛に気付かされ、感謝の気持ちが溢れ、喜びの涙とともに歌うことも…。あなたは、どんな時に、どんな讃美歌を思い出しますか？

#### 『山路こえて』 (讃美歌404番)

ある年のキャロリング、初老の男性に「クリスマスの曲ではないけれど」と『山路こえて』をリクエストされました。またある時、職場の若い同僚が歌っていたことも。意外に思って聞くと「学校で歌わされたので」と。作詞は西村清雄(にしむらすがお)。伝道の帰り、交通

法華津岬の展望台。岬越えの苦労も吹き飛ぶ絶景



の難所であった法華津岬で浮かんだ歌詞だといえます。

昨年の夏は、コロナ禍の影響で休日が増えました。収入は減りましたが、時間ができ『山路こえて』の舞台を訪ねることができました。明るいうちに車で岬越えしたのですが、山深く、なんとも頼りない道。昔の人は歩きでしたから、どんなにか心細く疲労困憊(こんぱい)したでしょう。

西村は、先行きが見えない暗い不安な道を主に信頼して歩きました。今の私も、岬道を歩んでいるのかな？

西村は、明治時代、松山にキリスト教主義の学校を創りました。今日でも卒業生を送り出しています。『山路こえて』は、学校の愛唱歌となり、松山の人々に愛され続けられているのでした。

(山口敏美 松山教会)

#### 『ナルドの壺』 (讃美歌391番)

今から30年近く前、近所の教会主催で、器楽アンサンブル「ユーオーディア」のミニコンサートがありました。その時、この曲を聴きました。クリスマスチャンの演奏家のグループだったからかもしれませんが、母が「今、祈ることはできます。」と言っていたことを、メロディーを聴くと思い出します。この旋律に、特に不安な時、癒されます。



演奏後CDを買い、のちに病床にあるクリスマスチャンの母と聴いたためでしょうか、母が「今、祈ることはできます。」と言っていたことを、メロディーを聴くと思い出します。この旋律に、特に不安な時、癒されます。

拙い演奏を時折させていただいていますが、『ナルドの壺』を献金の時に弾かせていただいています。

(柴崎まり 挙母教会)

#### 『やすかれ わが心よ』 (讃美歌298番)

私にとって一生忘れることのできない讃美歌となりました。2020年2月、心臓を患い自宅療養をしていた主人が呼吸困難を訴え、緊急入院しました。感染症対策のため面会できず、ただ心身の平安を祈るしかありませんでした。

ある夜のことです。私は讃美歌298番を覚えてたくて、まだ上手く読めない点字讃美歌をなでながら歌っていました。その時、急にラジオを聞きたくなり、電源を入れて驚きました。「フィンランディア」が流れてきたではありませんか。感激の中で、曲に合わせて歌いました。神様は共におられるということを感じた瞬間でした。

主人は3月に天国へと帰って行きました。私の心は平安でした。主にすべてを委ねる時、主は常に共にいてくださいます。

(田中栄子 神水教会)

#### 『ヌンクデイミテス』 (式文)

毎週礼拝で歌うシメオンの賛歌『ヌンクデイミテス』。年老いたシメオンが、幼子イエスと出会えた喜びの歌(ルカ2:29-32)です。信仰深く、讃美歌が大好きだった母が、十数年前に教保として洗礼式に立ち会った時に「この目であなたの救いを見ました」「やすらかに去らせてください」と歌ういつもの歌詞に、この日は聖霊の働きを体感したそうです。

一昨年、母(佐藤玲子)は希望通り礼拝堂いっばいに響くこの歌に送られ、神様のみもとへ行きました。

苦難や不安の後に必ず訪れる喜びを信じ、また今週も遣わされることへの感謝、そして母の信仰を継ぐ祈りも込めて、毎週大切に歌います。

(斉藤智子 市ヶ谷教会)



市ヶ谷教会



nao.

若き日、『丘の上の教会へ登る石畳、春は桜の花びら手のひらに受けて登る』(讃美歌第II編189番)と、短大の寮生はよく歌いました。それは学校が丘の上にあります。チャペルがあつたからです。

今通う教会は、丘の上ではありませんが、「みんなが集う」教会に変わりありません。コロナ禍で集うのが難しい時でも、私の心の中にある教会には、みんなが集まり、喜びで笑顔があふれています。

ペンネーム さやか

24期の会報では、谷口奈緒子さん(埼玉県在住)のイラストをさせていただきました。大変遅くなりましたが、感謝してご紹介させていただきます。